

# 2025年度(令和7年度)福山市立中条小学校 研究構想図

基礎学力の定着した児童へ  
個に応じた→学年相当

学校教育目標  
「自分を磨き ともに学び支え合う児童の育成」

課題を見付け、自分で  
学びを選べる児童へ

リフレクションを通して  
学びを調整できる児童へ

研究主題  
「主体的に学ぶ児童の育成～学びを充実させる授業の3Kを通して～」

集団での学び合いを通して、  
成長できる児童へ

児童一人一人を想定した  
**環境づくり**

PDCAサイクルに基づく  
個別の支援・配慮の改善

学習内容と児童をつなぐ  
**教材研究**

授業研究や意見交流から  
行う授業改善

学びの進化・深化へ導く  
**関係性**

「授業のユニバーサルデザインの考え方をふまえた授業改善」

- 児童は「参加・理解・習得・活用」の段階をどのようにステップアップしていくのか。
- 学びに向かいにくい児童や困難を抱えている児童に対してどのような手立て・支援を行っていけばよいのか。

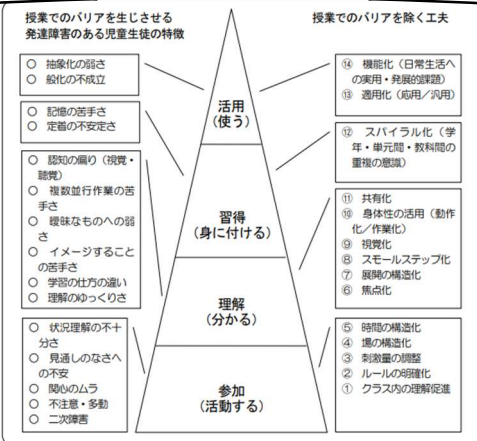
「単元内自由進度学習を基にした授業改善」

- どのように児童主体の学びへとつなげていくのか。
- 子どもたちが単元内自由進度学習を進めながら付けるべき力を身に付けていくために必要なことは？「こなす」→「分かる」へ
- リフレクションを通して、自己の学び方に向き合い、調整を図る。

児童が抱えるバリアを取り除く「UDモデル」

## 〔中条小学校児童の実態〕

児童の多様な学びを支える「マルチビザ理論」



多様な教育的ニーズを抱える児童が  
どの学年にも在籍している。

基礎学力の定着が困難な  
児童が各学年に在籍している。

家庭学習の習慣がなかなか  
定着しない児童がいる。

教室には位置付いているが、  
授業に位置づいていない児童がいる。

児童が自ら課題や解決方法を選びながら  
学習する力はまだ弱い。

学びの方略(自己の学び方)についての  
リフレクションは不十分。

